

第 1 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和 4 年 8 月 22 日

会議要録

令和4年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和4年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和4年8月22日(月) 10:00~11:54	
開催場所	島田市役所4階第3委員会室	
議題	<協議事項> (1)島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について (2)島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂の方向性について	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市自治会連合会参与 竹林 健次郎 ・島田青年会議所理事長 落合 辰也 ・(株)FM島田代表取締役 八木 和夫 ・島田市小中学校PTA連絡協議会会長 片川 範之(欠席) ・NPOクロスメディアしまだ理事長 大石 歩真 ・島田商工会議所副会頭 鈴木 國近 ・島田市商工会会長 岡村 修 ・島田市観光協会理事 西村 孝明 ・島田市農業経営振興会会長 鈴木 聡(代理出席 監事 仲田 裕子) ・島田工業高等学校校長 石川 徹 ・島田市校長会副会長 山本 訓之 ・島田掛川信用金庫地方創生部長 原田 佳典(代理出席 杉本 充晴) ・島田榛北地区労働者福祉協議会会長 樋熊 敦志 ・島田公共職業安定所所長 成岡 和子 ・静岡県立大学経営情報学部2年 八峠 友香 ・島田商業高等学校3年 望月 柚香 ・島田商業高等学校3年 柴本 楓葵 ・島田市市長 染谷 絹代
	オブザーバー	静岡県中部地域局長 鈴木 史朗(代理出席 副局長 松浦 隆典)
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市副市長 牛尾 伸吾 ・島田市教育長 山中 史章 ・島田市市長戦略部長 今村 重則
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 課長 中村 広史 課長補佐 小野 晶規 係長 大石 一晴 主査 杉山 知史 主事 永田 章二

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員名簿 ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 【資料1】 令和3年度第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書(案) 【資料2】 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂の方向性について 【資料3】 多様な主体と協働・連携した地域を支える人材育成 【その他】 デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像
------	--

<開会の挨拶>

○市長戦略部長

皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます島田市市長戦略部長の今村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ただ今から、「令和4年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。

はじめに、島田市長の染谷から、御挨拶を申し上げます。染谷市長よりよろしくお願いいたします。

○市長

皆様、おはようございます。

「令和4年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきますと思います。

御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、今回、新たに構成員となられた8名の方におかれましては、本会議に出席するのが初めてということで、緊張されておられるかもしれませんが、若い方達の意見がこの会を作っていきますので、思ったことは何でもお話いただいて、一緒に盛り上げていただけたらありがたいと思っております。

この会議は、本市の特長を生かし持続可能な社会を創生する、まさに、官民一体となって地方創生の実現に向けて歩みを進めていくことを目的に設置されている会議でございます。

平成27年5月に第1回会議を開催し、同年10月には、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しております。この計画では、2060年における島田市の目標人口を8万人と定めて、5年間の計画期間における主要な施策を位置付けています。

毎年度、取組の進捗状況について評価・検証を行っておりまして、この市民会議の構成員の皆様からも御意見をいただきながら、計画を推進してまいりました。

その結果、総合戦略策定前に6万人程度であった2060年の将来推計人口が、最新の推計では、約2,300人上昇しております。

さらに令和2年度からは、地方創生の実現をより深化させるために、「第2期総合戦略」に基づく取組に着手しています。

本日は、その進捗に関する評価、検証について、皆様から御意見を頂戴したいと思っております。

また、国は今年の年末に、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改定して、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定いたします。「デジタル田園都市国家構想」とは、岸田首相が掲げる「新しい資本主義」の重要な柱の一つとされておりまして、デジタル技術を活用して、地方においても大都市と同じように便利で快適に暮らせる社会を目指していくというものでございます。

国の地方創生の取組が始まってから7年が経過し、地方創生の取組の仕方が大きく変化しはじめているのを感じています。

島田市としては、国の動きに合わせて「第2期総合戦略」を改訂してまいりたいと考えておりますので、会議において御説明させてい

たきます。

会議後半は、構成員の皆様との自由な意見交換の時間とさせていただきたいと考えております。

限られた時間ではございますが、皆様から忌憚のない御意見や御提言をいただき、本日の会議が有意義なものとなりますよう、皆様のお力添えをお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

- 市長戦略部長 ありがとうございます。
続きまして、本年度初めての市民会議でありますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。
全ての皆様から御挨拶をお願いしたいと思っております。

(会議出席者自己紹介)

- 市長戦略部長 ありがとうございます。
なお、本日は、島田市小中学校PTA連絡協議会 会長 片川 範之様が、所用により欠席となっております。
また、島田青年会議所理事長 落合 辰也様が遅れているところでございます。
それでは、次第に沿って、早速、議事に入っていきたいと思っております。
議事を進めるにあたり、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱」第3条の規定に基づきまして、議長を染谷市長をお願いしたいと思っております。
それでは、市長、よろしく願いいたします。

<議事(協議事項)(1)>

- 市長 皆様、よろしくお願い申し上げます。
それでは早速、議事に入ります。
本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する協議事項が2点ございます。
まず、はじめに、協議事項の(1)「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について」事務局から説明をお願いします。

- 事務局 **資料1**の説明
総合戦略の成り立ちと、第2期総合戦略の令和3年度実績による評価結果について説明
・島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの説明
・島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の説明
・評価・検証(PDCAサイクル)の説明
・評価結果の説明

- 市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はございませんか。

- A 構成員 2 ページから 4 ページの内容については、5 ページ以降の「『施策の目標』及び『重要業績評価指標（KPI）』の実績値及び評価」にも絡んでいるのでしょうか。
- 事務局 5 ページ以降にも絡んでいます。
2 ページの基本目標 1 は、5 ページにある基本目標 1 とつながっています。
- A 構成員 農業の立場から申し上げますと、「認定農業者への農地集積率（累計）」及び「認定農業者数（年度末現在）」は評価が C 評価、D 評価となりましたが、前にも申し上げたとおり、近隣市町と比べると島田市は非常に安定しているということ、令和 3 年度は、「人・農地プラン」に位置付けられた調査も実施しており、非常に農業経営振興会の会員も高く評価しているということを議会に説明する際には申し添えていただきたいと思います。
ここだけ見ると、低い評価となってしまうので、私としては努力をしていることは認めたいという気持ちです。
- 市長 「人・農地プラン」と「担い手」のアンケート調査は回収率 95% を超えております。
「認定農業者数」も他市に比べて多く着実に実施していますが、「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価方法が、少しでも減るとマイナスになり、なかなか数値だけでは評価しがたい部分は、文言でカバーをしていくことが大事になってきます。
また、数値だけで評価を決めるということについて、私自身も疑問に思っています。
市民の皆様や関連団体の皆様が頑張っていることを、市議会へ報告できるようにしていきたいと思っております。
事務局、よろしく申し上げます。
- B 構成員 島田市が住みやすいという結果が出ている状況の中で、本年度、首都圏での活動を始めたようですが、今後どのような考え方で進めていくのか、お考えをお聞かせください。
- 事務局 先月、東京駅で「緑茶縁日」というイベントを開催しました。
感触としては良かったわけですが、今後も機会をみて、首都圏で PR に努めていきたいと考えております。
また、今年度首都圏の企業とネットワークを形成していく事業を同時に始めております。島田市としてどのように首都圏の企業に対し売り込みをしていくか、係わっていくか、PR をしていくかということを積極的に進めていきたいと考えております。
- 市長 東京駅では様々な自治体がイベントを繰り出すわけですが、「緑茶縁日」については、JR 西日本が素晴らしい評価をしてくださって、JR 西日本の広報紙等にも載せていただけたというお話がありまし

た。

シティプロモーションは、島田を知ってもらって、来てもらって、お金を落とすという、島田に呼び込むための大きな戦略として実施しています。

しかし、イベントというのは、掛かる経費に対してプラスの収入にはなりません。お金では表せない効果があり、知名度を上げる、そして誘客の件数を増やすために実施しております。

他にはいかがでしょうか。

よろしいですか。

いただきました御意見等につきましては、しっかりと取りまとめの上で、必要に応じて評価書を修正して、皆様にお示しをさせていただきたいと思っております。

それでは、次の議事に入らせていただきます。

<議事（協議事項）（2）>

○市長 協議事項の(2)「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂の方向性」について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 資料2の説明
島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂の方向性について説明
国の「デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像」の説明

○市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等ございませんか。

○C 構成員 「まち・ひと・しごと」ではなく「しごと・ひと・まち」ではないかと常々思っていました。基本目標1「日本で、世界で、稼ぐ産業の創出」の主な施策「高速交通網の拠点で稼ぐ」について、自分の仕事の内容を高めたり、お客様を獲得したり、自分でやる努力というのは当たり前でやっておりますが、自分の努力ではできない公的なインフラ整備に対し、今まで以上に、お力を発揮していただきたいと思っております。都市間競争の一番の要が公的インフラの整備だと思っております。

○市長 島田市は、東名、新東名、国道1号、国道473号、空港と、静岡県の中でも大変重要な場所です。私自身が国土交通省や中部地方整備局へ出向くときも、道路のインフラというのは地方創生の1丁目1番地だということを言っております。企業の努力ではできないインフラの投資について、積極的に取り組んでほしいという御意見を承りました。

○D 構成員 「デジタル田園都市国家構想」は新しい取組で、ぜひ進めてほしいと思っておりますが、日本全国を見ると、地方の人口減少を食い止めることは全くできていないこと、また東京一極集中の是正は、ほとんど

できていない中で、この地方創生はデジタル田園都市国家構想に変わってきました。

デジタルを使うということは、当然地方創生を進めるための1つの手段ですので、資料2の3の改訂の内容としてデジタルトランスフォーメーションの推進を施策として進めていきたいということで、ぜひうまく活用しながら進めてほしいと思います。

○市長

日本全国が人口減少のスキームに入っており、子どもを出産できる年齢層の女性の数が減ってきていますので、1人の女性が産む子どもの数が増えたとしても、これから数十年間、日本の社会は人口減少を食い止めることは難しい状況です。

そうした中コロナ禍もあり、昨年生まれた赤ちゃんは81万人。つい数年前まで105万人ショックと言われていたのが、そこからまた2割も減るといような状況です。コロナ禍に出生数の激減を取り戻すことができるのかどうかも含めて、様々な人口減少対策を取っていかなくてはなりません。

日ごろから私は、デジタルトランスフォーメーションについて、今年1年の頑張りが10年の大きな差につながると話していて、3年前に全国に先駆けて、「島田市デジタル変革宣言」をしました。県内でも島田市のデジタルトランスフォーメーションはかなり進んでいる方で、今、内閣府が実施しております「夏のDigi田甲子園」に、島田の子育て支援プラットフォームの施策が静岡県代表として選ばれ、出場しています。今は子育ての分野ですが、教育の分野、福祉の分野等へ拡大していくことを想定して作ったプラットフォームですので、いずれスマートフォン1つあれば、市役所に来なくても、手続きができる、相談ができる、市役所のやっていることがわかるというような形に、1年でも早く皆様方にそれを享受していただく、実感を持っていただけるように、頑張ってまいりたいと思います。

○教育長

GIGAスクール構想ということで、小学生・中学生は自分用のパソコンを1人1台用意して授業で使っています。数学その他の教科でパソコンを使って、児童生徒が自分で調べたり、学習したりしています。

教育委員会としましても、プラットフォーム化をして、児童生徒ではなく先生方もより授業で使いやすく、より簡単にできるような形での取組を考えています。

○E構成員

「デジタル田園都市国家構想」について、コロナ禍等を経て、国の方針が定められている以上、日本中の地方が取り組んでいくということになると思います。

日本中の地方の競争に、島田市として立っていきたいということをし、すごく感じます。

我々、地域づくりの立場からすると、地域の個性を磨き上げることが非常に求められていくと思いますし、選ばれる島田市、選ばれる

地方というところをどのように個性を磨いて作っていくのかということが非常に重要になってくると思います。

できるだけ早く構想に向けた取組をスタートさせ、我々としては、文化芸術の取組なども実施していますので、地方の個性を作っていく、そういったところを表層化させていくというところの重要な要素だと思っています。そういった部分では一緒になって取り組めればと思っていますのでよろしく願いいたします。

○市長 国が示すのが今年の年末くらいで、それを見てから「デジタル田園都市国家構想」に基づく島田市の総合戦略を作っていく形になります。

<意見交換>

○市長 次に意見交換に入ります。
島田市はこれまで、静岡県立大学をはじめとする大学や、市内5つの高等学校、3つの経済団体と締結した包括連携協定などをベースにして、地域の未来を担う人材育成に取り組んでまいりましたが、今後も引き続き、この人材育成を実施していきたいと考えております。

そこで今回は、皆様からお話をお伺いする前に、「多様な主体と協働・連携した地域を支える人材育成」について情報提供をしたいと思っております。

説明をお願いいたします。

○事務局 **資料3**の説明
「多様な主体と協働・連携した地域を支える人材育成」の説明。

- ・人口の観点からの現状と目標
- ・総合戦略における位置づけ
- ・具体的な取組
- ・今後の方向性・まとめ

○市長 情報提供に対する御意見、御提案、そして本日の御感想など、なんでも構いませんので、御自由に発言していただければと思いますがいかがでしょうか。

せっかく今、大学や高校との連携という話が出ましたので、若い力の皆様方のお声を一言ずつ聞かせていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○F 構成員 私も実際耳にしているお話ですが、島田市との連携事業を実施しているのは3年生以上で私はまだ体験していませんが、島田市や地域と一緒に活動することで、経済や観光、地域についても学んでいるので、自分が学んだことを実践で生かせる場でもありますし、周りの友達や学生を含めて、その地域に対する魅力や印象も付くと思うので、私達としても、島田市としても、とても影響があることではないかと思っております。

私も今後、島田市と連携した学習を実際にできればとっていて、自分が学んだことを島田市に還元できるようにしたいとお話を聞いて思いました。

○市長 私から1つ質問ですが、若い女性の方達に生まれ育った町に帰ってきてもらう、あるいは、そこで暮らし続けてもらうことに対して、どんな御意見をお持ちでしょうか。
あるいは、こんな方策をしたら、もっと多くの方が地元に戻れるのではないかなど、そんなアイデアがありましたらお聞かせください。

○F 構成員 おそらく20歳前後ですと、どうしても進学や就職で県外へ出てしまう方も多いたと思いますが、私自身は、とても島田市が暮らしやすい町だと感じていて、都市部だと、子育てなどの生活環境も充実していなかったりして、その点、島田市は住みやすさの観点から生活面においてはすごく充実していると思います。
最近では新型コロナウイルスの影響で、都市部で暮らすよりも地元や地方で暮らしたいという考えを持っている方が、私の周りにも増えていると思うので、具体的な方法はわかりませんが、以前よりは地方に戻ってきたいと思っている方や、そういう考え方が広がっていると思います。

○市長 島田が持っている魅力や力、若い人達に選ばれる、子育てがしやすい、みんなが幸せに暮らせる町だということをしつかりアピールできるように磨きをかけていきたいと思いました。

○G 構成員 女性議会や平和祈念式典、和菓子バルに参加させていただいたことがあります。和菓子バルでは商店街に実際に売っている和菓子と、売っている側の方と話し合っていたので、商店街について興味を持つことができましたし、平和祈念式典については、考えることが多くありました。こういった活動を続けていけば、島田市に愛着を持って長くいてもらえると感じました。

○市長 おっしゃるとおりで、中学生や高校生の時にまちづくりや地域のイベントに主体的に関わった経験がある、つまりふるさと島田に根っこを持っているということがいずれ帰ってくるかどうか考える時の大きな道標になると思っています。
若い方達に、様々な分野でまちづくり、あるいは市政の施策に御協力いただければありがたいと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

○H 構成員 学校でも実際に企業の方からお話を聞いたことがあるので、自分の進路にすごく役立つことができました。話を聞かないより、自分の進路について考えることができますし、市内の企業の方に来てもらうことで、島田市を知るきっかけになりました。
高校生と企業の方が関わって高校生が活躍できる場を作ってください

るのはすごくありがたいです。

自分自身もボランティアや緑茶縁日に参加させていただいて、市民の方とも市役所の方とも関わる事ができたので、島田市を改めて知って、島田市を好きになるきっかけを自分自身の体で感じ取ることができたので、今後も高校生が活躍できるボランティアや企業の方とのイベントを盛り上げていただきたいと思います。

○I 構成員

小学生のサマーキャンプなどを実施して、若者の育成に力を入れておりますが、新しくまちづくり、イベント企画するにあたって、若い方の考え方や行動力、エネルギーを貸していただくと、なお一層、地域の発展に結びつく事業ができると思います。

連携・協定等の情報交換をさせていただきながら、私達もまちづくりに対して貢献していきたいと思っています。

○J 構成員

若いころに色々な経験をする事は非常に重要で、なるべく成功体験を積んでもらいたいと思います。

この体験は、将来の自分を形成していく材料となり、そういう場をどう作り上げていくかを大人側も考え、そこに学びが生まれるようなものにしていかななくてはならないと思います。

深刻なのは少子化問題で、結婚しない若者が非常に多くて、家族をどのように作っていくのか真剣に話し合っていかななくてはいけない局面になってきていると思っています。

これまで、いろんなチャレンジをしてきましたが、基本にしてきたのは、自分達のなりたい姿ということはイメージできますが、それを作るためには、今現在、自分達はどのような立場におかれていて、どこにいるのかという現在地の確認をないがしろにしていると、机上の空論になってしまいますので、目標と達成率も分かりやすいことですが、島田市が抱えている問題をもう少し深掘して、現状の姿をサーベイランスする必要性があるのではないかと感じています。

○市長

事務局からの報告にもありましたが、島田市が好きな市民の割合が過去最高の 73.3%となり、毎年調査する中で割合が上がってきているということは、大変嬉しいことだと思っています。

特に若い人達の中で、まちづくりに関心がある、あるいは地域の様々な取組や地域振興につながるようなことを、自らやってみたいと思う人の割合が、私は他市に比べて島田はたいへん高いと実感していて、この力こそが島田の未来を作る大きな力だと思っています。次の世代を作るのは若い人達の力ですので、若い人達が主役となり、今から成功体験を積んでいけるような取組を、重ねていかなければならないと思いました。

○K 構成員

高校生や大学生との連携をさらに拡大するという話がありましたが、新指導要領になってから、中学校でも探究的な課題というものが随分クローズアップされ、それに取り組むことが増えてきています。企業の方から色々なミッションをいただき、それに対して中学生な

りに考えたものを発信していくことを既に実施しています。
例えば、JR東海からふれあいウォーキングのコースを考えてほしいという依頼があり、3月にコースとして認定されました。
金谷産業祭では、賑わいを増やすために、どのような仕組み、どのような策を実施すればよいかというようなお願いをいただいたり、KADODE OOI GAWA では、商品の開発の提案をしたり、高校生、大学生に限らず、中学生との連携した取組を拡大実施していただきたいという気持ちでおりますので、よろしく願いいたします。

○市長 私達もそれを願っておりますので、中学校や小学校とも連携してまいりたいと思っておりますので、具体的なことを一緒に考えていきたいと思っております。

○L 構成員 大学との包括連携協定で、御利益ルートを作成いただいたということで、こういう企画はとても面白いと思っております。
現代だとSNS広告やデジタルトランスフォーメーションの視点は若い方々の方が非常に強いと思っておりますので、大人の意見ではなく、一般消費者やユーザー、若手の目線から見たようなアイデアを、どんどん発信していただければ面白いのではないかと思います。
「Glamping&Port 結」というとても魅力的な施設ができて、そこも「結」という字が入っていて、一工夫あってもいいのではないかと思います。どんどん積極的に企画や若い方々の力を借りて進めていければ、もっと面白いものになるのではないかと思います。

○市長 連携によって、さらに大きな力やPR力が発揮できるのではないかと思います。

○G 構成員 高校生が地域と接点を持つ機会をたくさん作っていただき本当にありがたいと思っております。先程、探究的な学びという話がありましたが、高校でも総合的な探求の時間や、あるいは商業高校や工業高校では課題研究という時間があり、生徒達が自分達でテーマを定めて様々な研究をしています。通常の授業とは違い、身近な社会での自分が問題として感じたことをテーマに掘り下げていくということで、金谷高等学校では地域を回って調べたり聞いたりということを狙っていて、島田工業高等学校はものづくりなので、地元の方々が必要なものは何かを考えて作るものを決めるなど、必ず地域との接点が出てくると思っております。
学校と家庭以外で自分を認めてもらうことがとても大事だと思っております。地域を好きになるには地域の方と話をして地域の方に認めてもらうことがとても大事だと思うので、そういった活動が、地元に着することにつながっていくと思っております。
在校生のうち半分近くが就職しますが、自宅から通勤できる職場で働きたいという生徒が多く、定着率が高い方ではないかと思っております。それはやはり普段から地元との関りがあるということの1つの現れだと思っておりますので、ぜひ地域とつながりながらの学びをつな

いでいければと思います。

- 市長 以前、高校卒業で地元就職する割合が非常に高いと伺ったことがあるのですが、今でもそうなのでしょうか。
- M構成員 高校生は地元の就職がほとんどです。この地域は多いと思います。6月1日から高校生の求人をハローワークで受け付けて、7月1日から公開していますが、今年度の求人数は昨年度と比べて、100人位多かったです。コロナの前よりも島田地域は高校生の求人を多くお出しいただいている状況ですので、数の上では、地元の子が地元の企業に就職できるようになっております。
- E構成員 人材育成プラットフォームの件で、先程から話が上がっているように、高校生と企業だったり、我々もボランティアを受け入れるような体験プログラムを実施したり、そういった取組が市内では活発化していると思います。人材育成プラットフォームは島田市が事務局になっていると思いますが、学校と民間が直接やっているような取組は情報として取りこぼされているものも多いと感じています。そういった情報も上手く吸い上げられれば、島田市は地域と学生がつながっている町だということが、重要なプロモーションの一環になって、そこが島田市にとって素晴らしいところだと思っていますので、情報のとりまとめのようなものができていたらと思います。
- 事務局 学校と民間についても、情報を集めていきたいと考えているところです。今回お示した事業数は市の中でも色々な事業をやっていますけれども、これまで取りまとめられておらず、全体の見える化をしていなかったため、まずは市が関わっていることを見える化したところ、平成30年度から43事業ほどあったことが分かりました。市がこうしたプラットフォームを作り、顔の見える関係性を作っていく中で、高校と話をすると、高校生はかなり忙しいという話も聞いていますので、大人側から一方的にお願いするのもよくないので、学校や企業から話を聞きながら、NPOの皆さんとも一緒にやりながら広げていって、より大きな輪に広げ、進めていきたいと思っています。
- C構成員 コロナ禍でここ2年ほどやっていませんが、島田工業高等学校、市の商工課、島田掛川信用金庫様に御協力いただいて、市からバスも提供していただいて、企業訪問をやっていたという実績もありましたので、報告させていただきます。
- 市長 コロナ禍で企業訪問は中止になっているのでしょうか。
- 事務局 ここ2年間はコロナ禍でやりにくい時期がありました。特にコロナ禍が始まった2年前は、企業に御協力いただけたとして

も、学校と調整がつかず、感染状況によってできないということも多くありました。そういった中で、Web を使った会社の説明会ということもかなり増えてきました。
最近、徐々にではありますが、いろんな方法を使いながら動きはじめている状況だと思います。

○G 構成員 インターンシップも、昨年、一昨年とコロナ禍でできなかったですが、今年はなんとか実施するために準備をさせていただいております。色々お世話になりますが、よろしく願いいたします。

○J 構成員 当会が実施しているジュニアエコノミーカレッジが子ども達にとって良いプログラムになっているのですが、コロナ禍でここ2年実施できておりません。
未確認情報ですが、藤枝市でジュニアエコノミーカレッジを実施するという話を聞きました。
子ども達が企画を考えて、その企画の中で商品を開発し、実際に販売して、販売した収益から課税されて税金を払うという、経済の仕組みを学ぶものになりますが、なかなかパワーのいる仕事になり、島田商業高等学校にも御協力をいただき、販売や商品開発のお手伝いをいただいておりますが、ジュニアエコノミーカレッジを藤枝市が実施するのであれば、島田市も市内で行う事業に御協力いただけたらありがたいです。

○市長 商工会青年部の一大事業として、ずっと実施してきていただいております。
ジュニアエコノミーカレッジが再開できることを強く願っております。この近辺でやっていたのは島田だけでした。ぜひ継続していただければと思います。

○B 構成員 中学生、高校生との企業との連携の話ですが、FM島田の定時番組で月1回、ハイスクールラジオという番組があります。
現在、島田樟誠高等学校、金谷高等学校、島田工業高等学校、藤枝明誠高等学校の生徒が夕方の番組に出演をしまして、ラジオ番組の制作からなにかから全てを高校生にお任せをして、生徒会活動や文化祭の活動、自分達が経験したことを発表する場を、ラジオ番組で実施しています。
県下のコミュニティ局の会員の中でも話をしたら、非常に面白いのではないかと関心を持っていただきました。
ぜひこの機会に島田商業高等学校の生徒にも参加していただければありがたいと思います。
中学生との連携ですが、学校からの要請がありまして、体験学習は積極的に受け入れています。今年は金谷中学校の生徒を7月に1回、8月に1回受入をして、2日で1コースという形で体験学習の受入をいたしました。
11月には初倉中学校の生徒を受け入れる予定になっていますので、

自分が思っていることをラジオで発信したり、色々な経験を積んでもらったり、そういう機会がありましたら、積極的に受け入れたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○市長 予定の時刻もだんだんと迫ってまいりました。
もう1人、2人御意見をお伺いして意見交換を終了したいと思いますが、まだ発言をされていない方、いかがでしょうか。

○N構成員 地元の高校との連携ということで、6月に島田高等学校の3年生を対象にマネースクールを開催しました。成人年齢が20歳から18歳に引き下げられたことに伴い、18歳から親の同意を得なくても自分の意思で携帯電話の契約やクレジット、カードローン、1人暮らしの部屋を借りるなど、様々な契約ができるようになります。ただし、未成年者取消権は行使できなくなります。親の同意が無くても契約した場合、これまでは取り消すことができましたが、これができなくなり、契約に関しての責任は自分にあるということで、契約の有利な知識を十分知ったうえで、トラブルに巻き込まれないように契約をするということを、講座では説明いたしました。

○市長 ありがとうございます。
18歳から成人として扱われることについては、高校でも選挙権のことも合わせて授業で取り上げていただいていると思います。若く経験が浅い方々をどう社会が守っていくかということについては、様々な活動の中で、高校だけでなく中学校も入ってくるのかもしれませんが、今後ともよろしく願いをしたいと思います。
まだまだ御意見尽きないかと思いますが、そろそろ予定の時刻が近づいてまいりました。
最後にオブザーバーとして御参加いただいております中部地域局の松浦副局長様から本日の会議について御意見等をお話いただきたいと思います。

○松浦副局長 特に評価にあたりまして、施策目標や指標の達成度合いにつきましては、県においてもそうですが、コロナの影響があったところとそうでないところと分けて分析をしており、非常に分かりやすいと思います。
その一方で、ウィズコロナ、あるいはポストコロナという時代がどこまで続くのかということがございますが、コロナとの関連におきましては、それぞれの施策において、どういう課題があって、それに対してどのように取り組んでいくのか、こうしたことを評価書に書く、書かないということは別としまして、行政として考えておくことが大事だと思っています。県においてもこうした発想はしてございます。
そうしたことを考えておくことが、評価が議会に説明され、ホームページ等で公表される中で、今後に対するビジョンが問われるということもあると思いました。

島田市が好きな市民の割合、住みごちが良いという形で、非常に環境の良さや暮らしやすさの満足度が高いということが大変すばらしいことだと思えます。これに関して、個人的に感じたことですが、こうした地域への愛着の醸成、これが実際に表れている事例として、実は私は里山歩きが好きで、島田市で実際山歩きをしているのですが、例えば智満寺に通じる尾川丁仏参道については、地元の大津の自治会の皆様などが参道の整備をされ、報道にも取り上げられました。

また、阿知ヶ谷アルプスという白岩寺公園からの登山道がございますけれども、歩いていますと、登山道あるいは休憩のベンチ等が里山クラブという方々の参加で整備がなされています。

こうした地道な取組は、山歩きの好きな人達がSNS等で発信していて、地元の方だけでなく、市外、場合によっては県外の人達にも伝わっていくこととなります。実際に里山整備の面でも地域への愛着ということが表れていると感じております。

また、指標の中で、社会移動や年少人口比率が高くないということについては、なかなか一朝一夕にはいかないということは、承知をしておりますが、観光面などで交流人口、関係人口を増やせるように、そしてまた結果として、移住定住の増加にもつながっていくという視点が大事だと思います。私ども中部地域局といたしましても、ワーケーションやアウトドア研修などの誘致、あるいは食を通じたツーリズムの促進などに取り組んでいるところでございます。

我々としてもできることを進めていければと思っております。

○市長

松浦副局長様ありがとうございました。

本日は、皆様からも前向きな意見、提案が出され、とても有意義な意見交換の時間になったと思えます。

本日、皆様からいただいた御意見については、今後のまちづくりにしっかりと生かしてまいります。

皆様の御協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。御協力ありがとうございます。

それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

事務局、お願いします。

○市長戦略部長

長時間にわたり、皆様ありがとうございました。

最後に、次回の市民会議の予定でございます。

本日の次第のその他の欄にも書いてありますが、令和5年3月22日（水）午後3時から、この会場での開催を予定しております。

委員の皆様には、近くなりましたら、改めて連絡をさせていただきます。

それでは、全体を通して御意見や御質問等はございませんでしょうか。

○C構成員

島田市のアドバンテージは富士山静岡空港だと思います。空港があるというアドバンテージをもっと前面に出して、もちろん今も出し

ていますけれども、展開したらいかがかと思えます。

○事務局

今、空港に関することは戦略推進課で主に担当しております。直近の状況ですと、FDA8号機に島田市としてネーミングライツということで3月31日まで実施しています。空港がある街ということで、市のシティプロモーションと、あと大変な航空業界の支援という2つの意味を込めて実施しました。また、空港に来た方が島田市内に来ていただけるように、空港から金谷駅、そのあと博物館、島田駅、蓬莱橋まで行くバスの運営の支援をしています。また、それ以外にも屋根が無い二階建てのオープントップバスや、ウォーキングのツアーというところで、空港周辺また空港に行く方を増やす取組を実施しています。そういった中で空港とも非常によく話をしていますので、人の流れがまた増えていくときには、より連携していきますし、そこだけでなく空港を活かしたまちづくりは、これからも模索していきたいと思えますので、お話にあった主旨で頑張っていきたいと思えます。

○市長戦略部長

その他、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして、「令和4年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございます。お気をつけてお帰りください。

～終了（11:54）